

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103697		
法人名	有限会社 マイハウス		
事業所名	マイハウス すが (ユニット名 マイハウス すが)		
所在地	岐阜市須賀3丁目17-5		
自己評価作成日	平成25年 1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JigyosvCd=2170103697-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成25年 2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の可能性や自主性を大切にし、生き活きと笑顔で毎日の生活を送れるよう支援することをスタッフ一同心がけている。また外に出かける機会を多く持っていただけるよう、ほぼ月に1回のバス外出や地域の行事への参加などを行っている。
また昨年は運営推進会議に合わせて行事を取り入れ、避難訓練や炊き出し、クリスマス会などを行い会議に出席していただく自治会の方にも喜んでいただき、地域とのより良い関係づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

100歳を超える利用者を筆頭に、利用者の自立度は高い。利用者は能力に応じて食事の仕度などの家事を率先して行い、大家族のように賑やかに暮らしている。職員は常に笑顔忘れず穏やかに利用者へ接し、同時に家族や地域との交流に努め、利用者の生き生きとした生活を支援している。
運営推進会議は、地域の4自治会長、福祉委員、民生委員、家族の参加により開催されており、意見を活発に交わし、利用者本位のサービス向上となるよう努めている。利用者の参加する地域の老人会は、時には参加者同士おはぎを作り、土産におはぎを貰う優しさ溢れる関係を築いている。
家族アンケートでの「家族はホームのサービスに満足してるか」の問いに、全家族から「満足」の回答を得ており、家族と職員とが信頼関係をもって利用者を支える関係が見て取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「できる」ことへの支援を惜みず、どんどん地域に出る機会を持ち活き活きと生活してもらえよう理念に基づいたケアを意識している	理念はホーム内に掲示し、利用者、家族、職員はいつでも理念を確認できるように工夫している。介護計画作成の事前会議や日々の介護を通じ、理念についての話し合いを行い、実践に反映するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のように散歩に出かけ、地域の人に出会うと声をかけていただけ 毎月一回開かれているサロンに参加し楽しく交流している	散歩の際には地域の住人から声が掛かる。地域からは認知症や病院の問合せがあり、適切にアドバイスしている。隣接する高校のコンサートに利用者が招待され、そこでは特等席の準備がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と地域の行事に参加し接していただくことで、認知症を理解していただき、実践してきたことを伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へは多数の自治会の方に出席していただき、活発に意見交換を行っており、サービス向上に生かしている。また会議に合わせて避難訓練等行っている	家族、地域4ヶ所の自治会長の参加、民生委員、福祉委員など多くの参加を得ている。会議参加者のホームを支える意識は高く、活発で賑やかな意見交換を行ない、ホーム運営に活かす会議としている。	行政の参加は比較的少ない。議題を更に複数の視点から審議し、運営に成果を挙げるよう望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者がG・H協議会の役員をしており、日ごろから市町村担当者と連絡を密にしており協力関係を築いている	代表は県のグループホーム協議会の役員として市との関わりに努め、互いに協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないケアを理解しているが、ホーム前に交通量の多い道路があり、玄関の施錠は行っている。ミーティング時に利用者の状況を報告し施錠などの対応も話し合い検討している	利用者は常に自由に過ごすこととし、職員の意識を統一している。車椅子乗車での食事は、テーブル席との間に逃げ場がなく拘束と捉えている。食事の際は必ず椅子に移乗するきめ細かな対応に、職員の意識の高さが見て取れる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修など学ぶ機会があれば積極的にケア会議やミーティングの席で共有している。入浴時や更衣時身体の観察を行い虐待が見逃されていないか確認し報告を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の状況をよく理解し必要と思われる家族には成年後見制度の説明をし、活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には代表者が時間をかけて十分な説明をしている。特に終末期のケアについては十分に説明し納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常的にまた家族にはケアプランの説明時や面会時に意見、要望を聴くことを心がけている 意見箱も玄関に設置し、出された要望はミーティング時に全体で話し合っている	家族は利用者をホームに託すのではなく、ホームと共に利用者を支えることとし、家族の理解を得ている。月1回は全家族の訪問を受け、ホームの行事運営には当事者として協力する関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員との関係作りを心がけ、意見や要望を話しやすい雰囲気を作り、出された提案はミーティング時に全体で話し合っている	職員の定着率の良いホームである。管理者は職員と信頼関係を築き、日常的に遠慮なく意見を表せるように努めている。職員の利用者担当制を敷き、定期会議に利用者の状況や問題の対策を報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内のホームを頻繁に回り、職員の勤務状況を把握し職員が向上心を持って働けるよう環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の力量を把握し、研修を受ける機会を設けている また資格の受験条件がそろった職員には積極的に受験することを推奨し、シフトの調整をして支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会が主催する研修会や同業者が行う勉強会に出席するなど交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず本人と面談をし、本人の状況を把握し話をじっくり聴き、いい加減な受け答えはせず信頼してもらえる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱える問題等も話しやすい雰囲気を作り、耳を傾け共感しながら現在あるサービスの情報を提供し、解決策を見出していけるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来てもらったり、自宅に面接に行き、本人と家族が望んでいる切らしを理解し、必要なサービスにつなげていけるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等な立場であることを意識し本人の意思を尊重し、日々の生活の中で共に作業したり関わる機会を多く持つ中で支え合う関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の会話の中で家族に伝えたい思いがあつたら面会時や電話連絡の時に伝え、家族とより良い関係を築けるように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話の中で本人の思いや願いが強い馴染みの人や場所を家族に伝え、希望が叶うように支援している	初詣には全利用者が晴れ着に着飾り、馴染みの伊奈波神社に参拝する喜びの機会としている。親戚や友人との年賀状交換にも職員が協力しており、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性などよく理解し、時には喫茶店や美容院など外出の機会を持ち気分転換してもらう また外出困難な利用者には作業やレクを通して関わり合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者、家族からその後の経過や相談の連絡があり、情報を提供したり相談のっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はできる限り利用者と共に生活し、何気ない会話の中で思いや希望を把握している。困難な場合は行動や様子から把握に努めている	日々の介護の中で掴んだ利用者の思いや意向は生活記録に記し、職員間で共有している。生活記録のファイルの見開きに介護計画のテーマを貼り付け、利用者の意向や思いの把握を意識できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から情報を収集し、入所後は会話の中から聴きだせる限り続けていける環境を作れるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で「何をしたいのか」を選択していただき、自発的に行動することを大切にしている。日常の作業には能力に応じてできる限り参加していただいている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなくどの職員も日頃の会話の中で本人の思いや意向を把握し、ケア会議やミーティング時に共有し、介護計画に反映している	毎月、職員のケア会議とケアマネ会議を実施し、3ヶ月ごとに家族、職員を交えサービス担当者会議を開催している。計画の内容は、「その人らしさの感じられる」個別計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はケアプランのニーズを確認しながら本人の言葉、エピソードを記入している。 ケアプランの見直しの前にはケア会議を行い職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者からの要望や状態から必要なサービスをその時々取り入れながら行っている。また家族にも協力を得て関わりを途切れさせることのない関係作りを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席している役員(民生委員、福祉委員、自治会長)より地域資源の情報を得、利用者に応じて参加している。日頃より地域の中に出ていくことを心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族と相談しかかりつけ医を決めている。また医療機関にかかる時は本人、家族の要望を聴きかかりつけ医に紹介状を書いてもらい、同行して状態の説明を行っている。	家族の希望するかかりつけ医、ホームの提携医に限らず、手厚い医療連携を目的に2週間に1度の往診の体制を築いている。医師に利用者の健康状態を伝えて相談し、適切な服薬となるよう取組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で気づいたことや心配なことは月に一度訪問看護師が来所した時に相談し指示を仰ぎ適切な医療につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を病院に行き、家族にも入院に必要なものを用意し相談にのっている。入院中は様子見舞い時病院関係者に話を聞き関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化したり医療が必要になった場合の事をしっかり説明し納得してもらったうえで、その段階になった場合家族、主治医、関係機関と相談し支援している	第2の家庭として、利用者の自立した生活の継続を目標に定めており、看取りの実績はない。重度化した場合も極力ホームの暮らしの継続を支援し、支援の難しい場合には、他施設の紹介など適切な助言を行ない、退居後も相談に応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時など職員が手薄になる時間帯の緊急マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。また色々なケースを想定した勉強会や話し合いをミーティング時などに行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を運営推進会議と合わせて行うことにより地域住民の方に多数参加していただき、災害時に協力してもらえる関係を作っている。また自治会が開催している防災研修にも参加している	年2回の避難訓練を実施している。地域の屋外の炊出し訓練では、おにぎりやけんちん汁を作り、地域と協力して実施している。消防署への通報システムやスプリンクラーを完備し、万全な災害対策に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけや対応を職員全員が心がけ、会議の場でも確認している。また親しみの中にも尊敬の気持ちを持って接することを心がけている	呼称や言葉掛けは、利用者個々の希望や生活歴を汲取り対応し、利用者の穏やかな生活を支援している。居室は利用者の許可を得て入室し、個浴可能な利用者は外で見守り、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のいろいろな場面で意思決定のできる働きかけをしている。日頃より自分の思いや希望が話しやすい関係作りに務めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な流れの中でその人のペースを大切に、本人に意思決定してもらう機会を多くできる努力をしている。外出や買い物も希望を取り入れている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へは本人の希望を聞きながら定期的に出かけている。洋服や化粧品もお店に行き自分で選んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントや日頃の会話から嗜好を把握しその日の天気や行事に合わせて一緒にメニューを考え準備や片づけを個々の力に合わせて参加してもらい、同じテーブルで会話をしながら楽しく食事している	食事は家庭同様に、その日に決めて作る手料理である。経験豊かな利用者は、職員にメニューの提案や作り方を伝授し、自らも主役として包丁を使うことを楽しんでいる。利用者と職員が、楽しい食事風景を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれたメニュー作りを心がけ、体重測定や血液検査等により栄養状態を把握し、食べやすい形状で提供している。食事量、水分量を記録し、栄養を確保できるよう務めている。夜間はペットボトルに入ったお茶を居室に持参している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の力に応じた口腔ケアを行い、できないところは職員が解除し衛生に努めている。義歯は毎日洗浄液に入れている。隔週で訪問歯科診療による治療、口腔ケアを受け、家族にも報告し必要があればしか受信していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを記録等により把握し、また利用者様子から誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。布パンツ使用の利用者も多い	布パンツの利用者も多く、必要以上の介助を避け自立した排泄を支援している。介助の必要な利用者は、排泄記録を参考に仕草などのシグナルを読み取り適切な声かけを行ない、快適な排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録によりパターンを把握し、必要な場合は薬で早めの対応をしている。毎日ヨーグルトや果物を食べたり、食物繊維の多い食事、体操を行うなどしている。お腹が張っているときはマッサージも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の準備を職員と共に行い、着替えの服を選んでもらっている。一人ひとりゆっくり入り、昔話を聴いたり、唄ったりして楽しい時間になるよう支援している	入浴は隔日とし、肌に優しい入浴剤を取入れ十分な時間を確保して寛げる入浴を支援している。入浴を、利用者と職員とが会話や歌を楽しむ時間としており、現在入浴の拒否はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はトランプやかるたなどゲームをしたり、観たいテレビを観て21時頃まではゆっくり過ごしてもらっている。ホットミルクも提供している。昼食後など横になりたい人には自由に休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を冷蔵庫の目につくところに貼り、薬の名前や効能を職員全員が理解できるようにしている 処方の変更があった場合は変化を見逃さず、記録、報告に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好きなことが集中してできる時間と場所を提供し、生き活きた生活が送れるよう、家族にも協力してもらい支援している。得意分野を生かし食事作り、掃除、畑仕事などに参加してもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や喫茶店、服など希望の買い物に日常的に外出している。また本人の「希望を把握し、家族に伝え出かけられるように支援している。ほぼ毎月福祉バスを利用し家族や地域のボランティアの協力を得て遠出をしている	職員が一丸となり利用者本意の外出に取組んでいる。日課の散歩外出、行きつけの喫茶店のモーニングの他、福祉バスを利用した家族参加の小旅行を企画し、イチゴ狩り、水族館、テーマパークなどへ毎月のように出かけ、利用者の喜びの時としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の理解がある人には所持してもらっているが、ほとんどの場合立て替えという形で、家族に請求している。 今後個々の希望に応じていきたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときには電話をかけたがってから本人に替わっている。 手紙は自由に出してもらい、年賀状は毎年何枚かずつ出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールは危険なためあまりものを置かず、季節の花を飾ったり、日本古来の行事を大切に飾りつけを心がけている。 壁には利用者の作品やバス外出の写真を掲示している	利用者の相性や能力に応じて居間のテーブル席を配置し、利用者が楽しく過ごせるよう配慮している。共有空間は清潔に保たれ、居間の壁に行事のスナップ写真や利用者の趣味の絵を掲示し、華やいた雰囲気を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中でソファの配置などによって違う空間を作り出している。 庭のデッキにもテーブルといすを置きいつでも過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた馴染みの物を持ってきていただき、安心して生活できるようにしている。入所後も一緒に居室作りを楽しむようにしている 掃除や片づけも一緒に定期的に行っている	利用者は、好みの化粧品、人形、趣味の絵の道具を居室に持込んでいる。家族が利用者と一緒に縫いぐるみや写真の飾り付けを行ない、女性らしい可愛い部屋作りを楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ一般の家の様な雰囲気の中で環境整備することによって、自立した生活が送れるよう支援している。 居室、トイレのドアに名前をつけわかりやすくしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103697		
法人名	有限会社 マイハウス		
事業所名	マイハウス すが (ユニット名 マイハウス うずら)		
所在地	岐阜市須賀3丁目17-5		
自己評価作成日	平成25年 1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JkyosyoCd=2170103697-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成25年 2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の可能性や自主性を大切に、生き活きと笑顔で毎日の生活を送れるよう支援することをスタッフ一同心がけている。また外に出かける機会を多く持っていただけるよう、ほぼ月に1回のバス外出や地域の行事への参加などを行っている。
また昨年は運営推進会議に合わせて行事を取り入れ、避難訓練や炊き出し、クリスマス会などを行い会議に出席していただく自治会の方にも喜んでいただき、地域とのより良い関係づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「できる」ことへの支援を惜まず、どんどん地域に出る機会を持ち生き活きと生活してもらえるよう理念に基づいたケアを意識している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のように散歩に出かけ、地域の人に出会うと声をかけていただけ 毎月一回開かれているサロンに参加し楽しく交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と地域の行事に参加し接していただくことで、認知症を理解していただき、実践してきたことを伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へは多数の自治会の方に出席していただき、活発に意見交換を行っており、サービス向上に生かしている。また会議に合わせて避難訓練等行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者がG・H協議会の役員をしており、日ごろから市町村担当者と連絡を密にしており協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないケアを理解しているが、ホーム前に交通量の多い道路があり、玄関の施錠は行っている。ミーティング時に利用者の状況を報告し施錠などの対応も話し合い検討している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修など学ぶ機会があれば積極的にケア会議やミーティングの席で共有している。入浴時や更衣時身体の観察を行い虐待が見逃されていないか確認し報告を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の状況をよく理解し必要と思われる家族には成年後見制度の説明をし、活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には代表者が時間をかけて十分な説明をしている。特に終末期のケアについては十分に説明し納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常的にまた家族にはケアプランの説明時や面会時に意見、要望を聴くことを心がけている 意見箱も玄関に設置し、出された要望はミーティング時に全体で話し合っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員との関係作りを心がけ、意見や要望を話しやすい雰囲気を作り、出された提案はミーティング時に全体で話し合っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内のホームを頻繁に回り、職員の勤務状況を把握し職員が向上心を持って働けるよう環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の力量を把握し、研修を受ける機会を設けている また資格の受験条件がそろった職員には積極的に受験することを推奨し、シフトの調整をして支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会が主催する研修会や同業者が行う勉強会に出席するなど交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず本人と面談をし、本人の状況を把握し話をじっくり聴き、いい加減な受け答えはせず信頼してもらえる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱える問題等も話しやすい雰囲気を作り、耳を傾け共感しながら現在あるサービスの情報を提供し、解決策を見出していけるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来てもらったり、自宅に面接に行き、本人と家族が望んでいる切らしを理解し、必要なサービスにつなげていけるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等な立場であることを意識し本人の意思を尊重し、日々の生活の中で共に作業したり関わる機会を多く持つ中で支え合う関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の会話の中で家族に伝えたい思いがあつたら面会時や電話連絡の時に伝え、家族とより良い関係を築けるように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話の中で本人の思いや願いが強い馴染みの人や場所を家族に伝え、希望が叶うように支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性などよく理解し、時には喫茶店や美容院など外出の機会を持ち気分転換してもらう また外出困難な利用者には作業やレクを通して関わり合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者、家族からその後の経過や相談の連絡があり、情報を提供したり相談のっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はできる限り利用者と共に生活し、何気ない会話の中で思いや希望を把握している。困難な場合は行動や様子から把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から情報を収集し、入所後は会話の中から聴きだしできる限り続けていける環境を作れるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で「何をしたいのか」を選択していただき、自発的に行動することを大切にしている。日常の作業には能力に応じてできる限り参加していただいている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなくどの職員も日頃の会話の中で本人の思いや意向を把握し、ケア会議やミーティング時に共有し、介護計画に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はケアプランのニーズを確認しながら本人の言葉、エピソードを記入している。 ケアプランの見直しの前にはケア会議を行い職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者からの要望や状態から必要なサービスをその時々取り入れながら行っている。また家族にも協力を得て関わりを途切れさせることのない関係作りを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席している役員(民生委員、福祉委員、自治会長)より地域資源の情報を得、利用者に応じて参加している。日頃より地域の中に出ていくことを心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族と相談しかかりつけ医を決めている。また医療機関にかかる時は本人、家族の要望を聴きかかりつけ医に紹介状を書いてもらい、同行して状態の説明を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で気づいたことや心配なことは月に一度訪問看護師が来所した時に相談し指示を仰ぎ適切な医療につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を病院に行き、家族にも入院に必要なものを用意し相談にのっている。入院中は様子見舞い時病院関係者に話を聞き関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化したり医療が必要になった場合の事をしっかり説明し納得してもらったうえで、その段階になった場合家族、主治医、関係機関と相談し支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時など職員が手薄になる時間帯の緊急マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。また色々なケースを想定した勉強会や話し合いをミーティング時などに行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を運営推進会議と合わせて行うことにより地域住民の方に多数参加していただき、災害時に協力してもらえる関係を作っている。また自治会が開催している防災研修にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけや対応を職員全員が心がけ、会議の場でも確認している。また親しみの中にも尊敬の気持ちを持って接することを心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のいろいろな場面で意思決定のできる働きかけをしている。日頃より自分の思いや希望が話しやすい関係作りに務めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な流れの中でその人のペースを大切に、本人に意思決定してもらう機会を多くできる努力をしている。外出や買い物も希望を取り入れている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へは本人の希望を聞きながら定期的に出かけている。洋服や化粧品もお店に行き自分で選んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントや日頃の会話から嗜好を把握しその日の天気や行事に合わせて一緒にメニューを考え準備や片づけを個々の力に合わせて参加してもらい、同じテーブルで会話をしながら楽しく食事している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれたメニュー作りを心がけ、体重測定や血液検査等により栄養状態を把握し、食べやすい形状で提供している。食事量、水分量を記録し、栄養を確保できるよう務めている。夜間はペットボトルに入ったお茶を居室に持参している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の力に応じた口腔ケアを行い、できないところは職員が解除し衛生に努めている。義歯は毎日洗浄液に入れている。隔週で訪問歯科診療による治療、口腔ケアを受け、家族にも報告し必要があればしか受信していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを記録等により把握し、また利用者様子から誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。布パンツ使用の利用者も多い		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録によりパターンを把握し、必要な場合は薬で早めの対応をしている。毎日ヨーグルトや果物を食べたり、食物繊維の多い食事、体操を行うなどしている。お腹が張っているときはマッサージも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の準備を職員と共に行い、着替えの服を選んでもらっている。一人ひとりゆっくり入り、昔話を聴いたり、唄ったりして楽しい時間になるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はトランプやかるたなどゲームをしたり、観たいテレビを観て21時頃まではゆっくり過ごしてもらっている。ホットミルクも提供している。昼食後など横になりたい人には自由に休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を冷蔵庫の目につくところに貼り、薬の名前や効能を職員全員が理解できるようにしている 処方の変更があった場合は変化を見逃さず、記録、報告に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好きなことが集中してできる時間と場所を提供し、生き生きとした生活が送れるよう、家族にも協力してもらい支援している。得意分野を生かし食事作り、掃除、畑仕事などに参加してもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や喫茶店、服など希望の買い物に日常的に外出している。また本人の「希望を把握し、家族に伝え出かけられるように支援している。ほぼ毎月福祉バスを利用し家族や地域のボランティアの協力を得て遠出をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の理解がある人には所持してもらっているが、ほとんどの場合立て替えという形で、家族に請求している。 今後個々の希望に応じていきたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときには電話をかけたがってから本人に替わっている。 手紙は自由に出してもらい、年賀状は毎年何枚かずつ出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールは危険なためあまりものを置かず、季節の花を飾ったり、日本古来の行事を大切に飾りつけを心がけている。 壁には利用者の作品やバス外出の写真を掲示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中でソファの配置などによって違う空間を作り出している。 庭のデッキにもテーブルといすを置きいつでも過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた馴染みの物を持ってきていただき、安心して生活できるようにしている。入所後も一緒に居室作りを楽しむようにしている 掃除や片づけも一緒に定期的に行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ一般の家の様な雰囲気の中で環境整備することによって、自立した生活が送れるよう支援している。 居室、トイレのドアに名前をつけわかりやすくしている		